

## 復興に当たっての基本理念（基本方針）（案）について

復興ビジョン検討委員会  
などの主な意見

- 復興ビジョンにはいかに住民の当事者意識や希望を高めていくかをきちんと位置づける。
- 中通り・会津地方による復興の牽引、浜通り地方のバックアップ
- ふくしまを愛する他県の人たちの応援が必要。
- 復興は、地域の意向を反映したものとすべき。

- 大地の汚れが浄化され、人々が戻ってくる、そのときに復興が終わるというメッセージを送るべき。

- 若い人たちが元気に働けるまちづくり、働く場を自前で確保できる復興と再生が必要。
- 本県復興の象徴として再生可能エネルギーを推進。

- 原子力エネルギーから自然エネルギーへの転換という文明論的な先駆けの地へ。
- 脱原発を宣言。廃炉についての考え方を整理。
- 原発についての判断は、経済や雇用を前提に考えるべきではないか。
- 地域循環型の経済（エネルギーの地産地消を含む。）
- 戦後の東北は電気と部品と食料を東京への貢ぎ物としていた。
- 誇りあるふるさとの復興と再生
- 世界にアピールする趣旨を明確にするべき。

- 母と子が安心して住めるふくしま（日本中で一番安心して暮らせるところにすべき。）
- 福島県の大地と海の浄化のため、人類の知恵と技術を結集

## 基本理念（基本方針）（案）

## 1. ふくしまを愛する人すべての力を結集した復興

- 全県が今回の大震災を自らのものとして受け止め、特に被害が大きかった浜通りを中通りや会津が支えていくなどして、「ふくしま」全体で復興を進める。
- 県民、企業、民間団体、市町村、県など、県内のあらゆる主体が力を合わせて、県民が希望と意欲を持てる「新生ふくしま」に向けて復興の取組みを進める。
- 国内外でふくしまを応援してくれるすべての人々の力を結集して本県の復興を進める。
- 復興の主体はあくまで地域であり、本県の復興は、本県が、そしてそれぞれの地域が主体となっていく。

## 2. ふるさとへの帰還の実現

- 避難を余儀なくされた県民がふるさとに戻ることができた日にふくしまの復興が達成されるという思いを県民すべてが共有しながら復興を進める。
- ふるさと帰還の取組みを行う中で、地域のきずながより一層高められたコミュニティづくりを進める。

## 3. 活力の早急な回復と飛躍

- 東北地方一の製造品出荷額を誇り、高品質で多種類の農産物を産出する全国有数の農業県であるとともに、美しい自然と温かい県民性により多くの人を引きつけてきた観光県でもある本県の地域経済をまず従来のレベルに戻すことを目標とする。
- さらに、再生可能エネルギー関連産業など、これからの時代を牽引する新たな産業の振興などにより、本県産業の更なる飛躍を目指す。

## 4. 安全・安心で持続可能な新たな社会の構築

- 今回の大震災による教訓を踏まえ、防災・減災・防犯という面はもちろん、まちづくり、産業施策、ライフスタイル等、あらゆる面で安全・安心で持続可能な社会（※）の在り方をふくしまから発信し、世界に誇る復興モデルを示す。
  - ※ 例示として
    - ・原子力発電に依存せず、再生可能エネルギー利用を飛躍的に高めた社会
    - ・大都市一極集中型ではなく、産業、エネルギーが地域で自立できる社会
    - ・効率性だけを偏重せず、様々な場面で代替手段を確保するなど、万一の事態に対応できる社会 等
- ふくしまの未来を担う子どもたちが本県に対する誇りを持てるようなふくしまの再生を図る。

## 5. 原子力災害の克服

- 世界の英知を集めて原子力災害の克服に向けた取組みを進める。
- 放射性物質の除去による大気・水・土壌等の浄化を進める。
- 長期間にわたるきめ細やかなモニタリングや健康管理と適切な医療体制整備により、新たな安全安心モデルを発信する。
- 風評被害への息の長い対策により産業に対する原子力災害の影響を克服する。